

「大雨は土砂災害を引き起こす」

京都府 京都府立豊学校舞鶴分校 4年 富永<sup>とみなが</sup> 和奏<sup>わかな</sup>

平成30年7月5日から8日まで、高気圧と低気圧がぶつかり合い、私が通う学校がある京都府北部の舞鶴市に梅雨前線が発達し、特別大雨警報と特別洪水警報が発表された。学校で給食を食べた後、午後の授業はお休みになり、お母さんがむかえに来てくれて、学校は休校になった。その日の夜、お父さんとお母さんが、水害に備えてひなんの準備をしてくれた。ひなんの準備をするのは命を守ることだと、その時、初めて分かった。

次の日も特別大雨警報が出たまま、早朝に担任の先生から、「今日も警報が出ていますので休校です。みなさん大丈夫ですか？」と、電話がかかってきた。その日、災害に備えてお母さんがインターネットでひなんグッズを注文した。家でテレビのニュースを見ていると、「舞鶴市、土砂災害で男性1人が行方不明。」と、ニュースキャスターの人が言っていた。その言葉を聞いた私は、「大丈夫かな？けが人はいないのかな？」と、思いながら心配と不安で体はふるえていた。それと同時に毎日学校までお父さんに車で送ってもらっていた私は、道路はどうなっているのだろうかかと急に不安になった。やはり、いつも通る白鳥街道は土砂崩れが起きて通行止めになっていた。

7月9日、月曜日の朝、別のルートを通して何とか学校にたどりついたが、「いつになったら通行止めの道は通れるようになるのだろうか。」と、私はその時思った。私の家にひ害はなかったが、その時はまだ、行方不明の人を探す必要があった。しばらくすると白鳥街道が通れるようになり、「土砂をどかせてくれるお仕事をしてくれる人は大変だっただろうな。」と、思った。のちに、西日本豪雨災害と命名された。

9月4日の台風21号で警報が出て、また、学校はりん時休校になった。この日は、関西国際空港にわたる橋に大きな船がぶつかり、飛行機を利用する人たちが大変な目にあったと、テレビで見た。

9月10日、11日の台風24号でも、また、警報が出て、学校はりん時休校になった。この時も、あちこちでゲリラ豪雨が発生し、道路はたくさんの水があふれるなどの大きなひ害が出た。土砂災害や水害はいつどこで起こるか分からないと、今まで以上に感じた。

時はさかのぼり、平成26年に広島県で起きた、土石流による豪雨災害では死者が200人を超え、多数の行方不明者が出た。家も流されて大変な思いをしている人たちが見守る中、行方不明の人を頑張って探す災害救助犬がどろんこになって活動している姿をテレビで見て、とても感動したことを思い出した。

どのような災害が起きても、早いひなんが生死を分けることがあるのだとよく分かった。この時、災害はとても危険でこわいものだと思った。「自分の命は自分で守る！」と、いうこともよく分かった。命はかけがえのないものだ。これからは命を大切に生きていきたいと思う。そして、みんなが協力して、安全な未来を作っていきたい。